

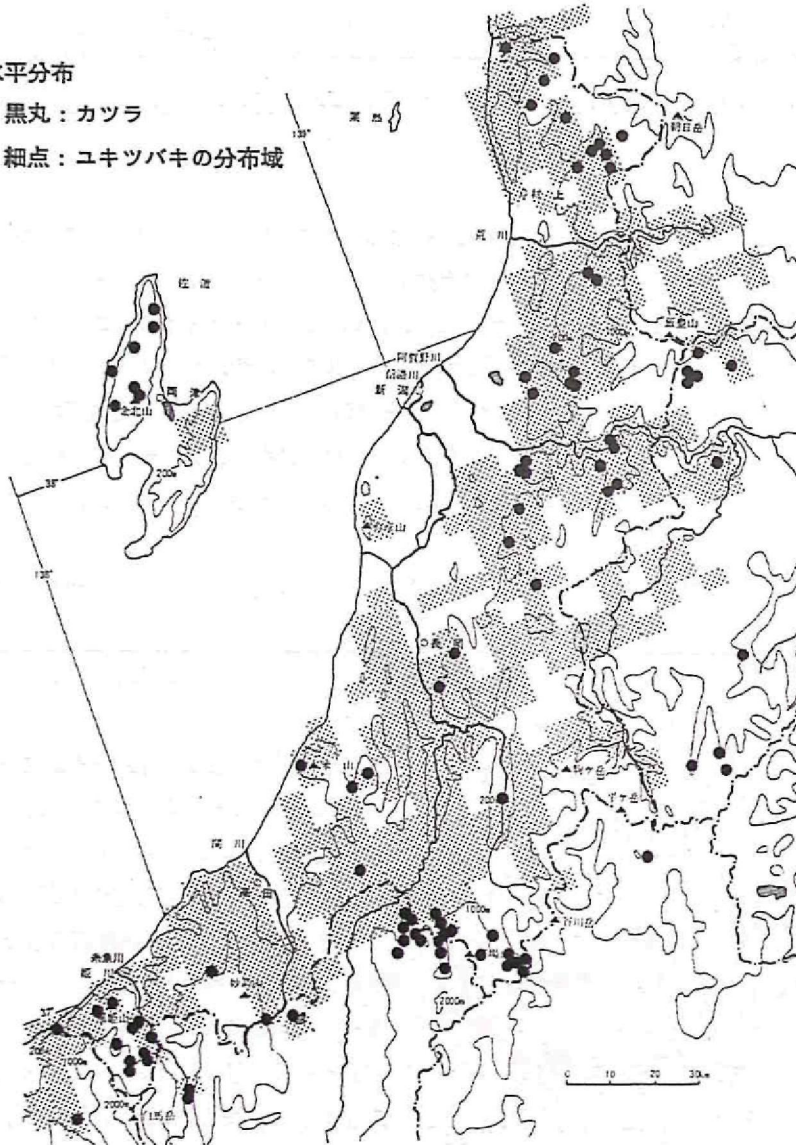
カツラの分布域との比較

石 沢 進

水平分布

黒丸：カツラ

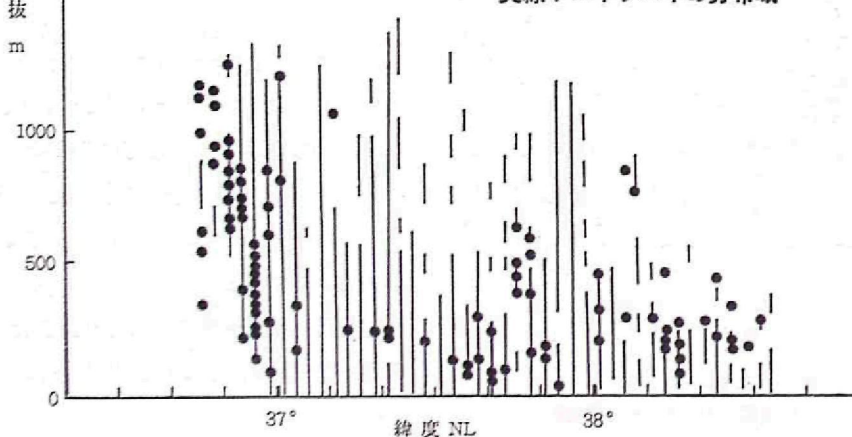
細点：ユキツバキの分布域

2000
海拔
m

垂直分布

黒丸：カツラ

実線：ユキツバキの分布域



新潟県の植物分布図が明らかになるに伴ないユキツバキの分布と他の植物の分布との比較が可能になってきている。菅名岳には自然状態で残存するカツラ樹林があり、その下層にはユキツバキが生育している。ここでは新潟県内におけるユキツバキとカツラの分布の実態を紹介し、両種の共存の意義を考えてみたい。

カツラの仲間は、日本と中国だけに知られており、日本では北海道、本州、四国、九州に分布し、中国にはその変種が記録されている。新潟県でも本土の越後における分布はやや内陸に偏って分布し、平野の近くの山地には稀にしか生育していない。佐渡ヶ島では大佐渡にはあるが、小佐渡にはみられない。垂直分布は南西部でやや高所にもあるが、多くは1000m以下に分布し(水平・垂直分布図参照)、水湿の多い沢沿いに生育している。

県内には自然のままに残存しているカツラの巨木は伐採されてしまい、その数は少なくなっている。そのような状況にある中で、菅名岳の新江沢にはカツラの巨木がまとまって樹林を形成している。そしてその巨木の周辺にユキツバキが群生している(口絵参照)。このように一ヶ所にカツラの巨木が林立し、その周辺にユキツバキがみられる樹林は、県内では他に例をみない。

ユキツバキも主に1000m以下の低海拔地に分布していることから、その種の生育する自然林はやはり伐採など人為的影響を受けやすく、古来からの自然状態での残存が少なくなっている。菅名岳はブナ-ユキツバキ群落が、自然のままに広範に分布している地域でもある。

以上のように菅名岳におけるカツラとユキツバキの共存する樹林の規模は県内唯一の貴重な存在であり、周辺のブナ-ユキツバキ群落とともに保護しておきたいものである。

口絵写真は「菅名岳の植物・動物」、カツラの分布図は新潟県植物分布図集第6集からそれぞれ引用